

演題：2013年のニューヨーク滞在経験からトランプ大統領の就任を考える  
—本当に不寛容のアメリカへの転換点と受け取れるのか—

平成29年3月5日  
日本大学短期大学部  
佐藤 聰彦

発表要旨：

ドナルド・トランプ氏のアメリカ大統領選勝利とその反響は、アメリカの分裂を象徴しているとの意見がある。しかし、2013年の一年間を含めた発表者のアメリカ経験では、所謂メルティング・ポットよりも、やはり依然としてサラダボウルであると感じている。この体験について報告すると共に、移民と宗教の面から考えられる人々の意識を、重層的文化プラットホームの形として簡単に説明したい。また、本来寛容と思われている人々の不寛容さ、そして協力や妥協が不可欠のはずの民主主義に対する姿勢についても変化があるのかについて言及したい。